

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・山村に移住するという友人からの手紙をきっかけに、かつてその山村を旅した折の様々な想いを綴った随筆からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりやや減少している。昨年度は出題された漢字の書き取り問題がなく、説明問題は五問となっている。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度と同じ16行であり、特に負担が増加したとは言えない。また、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	串田孫一『山村の秋』
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少)・変化なし・増加
難易 前年比較	難易 (易化)・変化なし・難化

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 直前の「贅沢」を踏まえ、「ずるい」という表現の内容を類推する。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄2行) 「こういう」の指示内容を丁寧に読み取る。
		問三	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 傍線部直前の「ところが」という表現に注目し、文脈を正確に読み取る。
		問四	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) どのような「秘密」なのか、文脈からの的確に読み取る。
		問五	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 私が山村に留まりたいと考える経緯と、それが許されないと思う根拠を、丁寧に読み取る。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・たんに字面を追うだけの読みとりでは高得点は望めない。文章の主題や筆者の主張を本文全体からの的確に把握するとともに、個々の文脈を精確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえた上で、理解した事柄を簡潔・的確に表現してみるといった訓練も欠かせない。
- ・今年度、漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

# 国語(現代文・古文)

京都大学 文系学部 (前期) 2/4

## <総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・「文学を読むとは、一つの歴史的経験である」とする古典文学者の評論文からの出題。
- ・解答行数が昨年よりも3行増加。

## <本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	西郷信綱『古事記注釈』
頻出度合 ・的中等	今年度「トップレベル現代文論述」完成シリーズ第三講に、同じ著者による「古典の影」を採用。内容も同趣旨のものであり、複数の設問においてポイントの重なりもあった。
分量 前年比較	分量 (減少・ <b>変化なし</b> ・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・ <b>変化なし</b> ・難化)

## <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	評論	問一	記述式	標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄3行)
		問二	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄3行)
		問三	記述式	標準	傍線部の内容説明問題。(解答欄4行)
		問四	記述式	標準	傍線部の理由説明問題。(解答欄4行)
		問五	記述式	やや難	本文全体を踏まえて波線部を説明する問題。(解答欄5行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

- ・昨年の文系三では小説からの出題だったことを踏まえ、評論だけでなく、随筆や小説も含めてできるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数 現代文 2題・古文 1題

試験時間 120分

- ・近世後期の詩話（漢詩についての談話や評論）からの出題で、今までにない出題傾向である。
- ・昨年は設問に漢文（返り点・送り仮名付き）が引かれ、その漢文が設問になっていたが、今年は本文に漢詩（返り点付き）が引用されており、設問にもなっていた。
- ・漢詩（一部）を現代語訳させる設問は初めてである。
- ・本文に和歌が1首引用されており、設問になっていた。
- ・解答数は昨年より一つ減って5つであった。

<本文分析>

大問番号	目
出典 (作者)	『夜航余話』（津阪東陽）
頻出度合 ・的中等	出典・箇所ともに稀
分量 前年比較	分量（減少・変化なし・増加） 約450字（前年は約210字）
難易 前年比較	難易（易化・変化なし・難化）

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	詩話 (漢詩について の談話 や評論)	問一	記述式	標準	現代語訳問題。条件は付いていない。「とかく」「運つたなく」「させる」などの語句の訳出がポイント。(解答欄2行)
		問二	記述式	標準	現代語訳問題。「言葉を補いつつ」という条件が付いている。「いとど」「切ならず」などの語句の訳出と、「其意」の指示内容を具体化するところがポイント。(解答欄2行)
		問三	記述式	標準	説明問題。漢詩の趣旨を本文の内容から説明する。漢詩の作者とある村の若者とが重ね合わせられているところを具体的に説明するところがポイント。(解答欄4行)
		問四	記述式	標準	漢詩の一部の現代語訳。返り点は付いているが送り仮名は付いていない。「孤村」がややわかりにくい。(解答欄2行)
		問五	記述式	標準	和歌の現代語訳。掛詞「ふし」、「竹の子」の比喻、「なに」「うき」「しげき」などの語句の訳出がポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・近世の文章に慣れておく必要がある。和歌は『古今和歌集』掲載の和歌であったので、『源氏物語』を代表とする中古の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・昨年同様和歌の現代語訳が出題された。修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・漢詩(返り点付き)の現代語訳が出題された。漢文については二年連続したことを考えると、センターレベルの漢文を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳が4題出題されているように、本文全体の現代語訳ができるかどうか京大文系古文の根本である。現代語訳を記述する練習がいちばんに望まれる。